

# 平成 16年 3月期 第 3 四半期業績の概況（連結）

平成 16年 1月 30日

上 場 会 社 名 ユニ・チャーム株式会社

上場取引所 東

コード番号 8113

本社所在都道府県

( URL http://www.unicharm.co.jp/ )

愛媛県

代 表 者 代表取締役社長 高原 豪久

問合せ先責任者 常務取締役 丸山 茂樹

TEL (03)3447-5111

## 1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

会計処理の方法の最近連結会計年度における : 無

認識の方法との相違の有無

連結及び持分法の適用範囲の異動の状況 : 有 連結（新規）1社

## 2. 平成16年3月期第3四半期の業績概況（平成15年4月1日 ~ 平成15年12月31日）

### (1) 経営成績（連結）の進捗状況

(注)記載金額は百万円未満を切り捨て

	売 上 高		営 業 利 益		経 常 利 益		当 期 ( 四 半 期 ) 純 利 益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
16年3月期第3四半期	181,827	-	24,717	-	25,385	-	13,164	-
15年3月期第3四半期	-	-	-	-	-	-	-	-
(参考)15年3月期	223,168	8.0	25,793	35.9	25,895	35.2	12,879	45.5

	1株当たり当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	
	円	銭	円	銭
16年3月期第3四半期	196	21	-	-
15年3月期第3四半期	-	-	-	-
(参考)15年3月期	185	29	-	-

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示しておりますが、前年同四半期決算を行っていないため記載を省略しております。  
前年同四半期については、四半期決算を行っていないため記載を省略しております。

### (2) 財政状態（連結）の変動状況

(注)記載金額は百万円未満を切り捨て

	総 資 産		株 主 資 本		株主資本比率		1株当たり株主資本	
	百万円		百万円		%		円 銭	
16年3月期第3四半期	201,437		119,818		59.5		1,802 45	
15年3月期第3四半期	-		-		-		-	
(参考)15年3月期	187,987		113,136		60.2		1,674 47	

(注)前年同四半期については、四半期決算を行っていないため記載を省略しております。

### 【連結キャッシュ・フローの状況】

(注)記載金額は百万円未満を切り捨て

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期 末 残 高
	百万円	百万円	百万円	百万円
16年3月期第3四半期	24,845	23,669	7,229	35,406
15年3月期第3四半期	-	-	-	-
(参考)15年3月期	27,185	26,410	9,805	41,568

(注)前年同四半期については、四半期決算を行っていないため記載を省略しております。

## 3. 平成16年3月期の連結業績予想（平成15年4月1日 ~ 平成16年3月31日）

(注)記載金額は百万円未満を切り捨て

	予 想 売 上 高	予 想 経 常 利 益	予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通 期	240,000	30,000	15,000

(参考)1株当たり予想当期純利益(通期) 223円69銭

上記の予想には、本資料の発表日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。実際の業績は、競合状況・為替の変動等にかかわるリスクや不確定要因により記載の予想数値と異なる可能性があります。

## [経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的状況等]

当第3四半期におけるわが国経済は、景気回復への歩みを確実にしつつも、国内個人消費については依然として厳しい状況が続いております。一方、当社が主として事業展開しておりますアジア経済は、安定した成長基調が続いております。

このような経済環境の中で、当社は、国内ベビーケア事業においては、パンツ化の促進と市場ニーズに合わせたラインアップの強化により売上高を伸ばいたしました。フェミニンケア事業においては、高付加価値製品の投入や、成長するパンティーライナー市場への積極的な製品投入により、売上高を伸ばいたしました。ヘルスケア事業及びペットケア事業においては、市場成長以上の成長率を実現いたしました。海外では、東アジアを中心に積極的なブランド浸透策を展開し、着実に業容を拡大し、売上高を伸ばいたしました。また、利益につきましては、増収効果と経費の効率的な活用によって、予定通り進捗することができました。この結果、売上高は1,818億円、営業利益は247億円、営業利益率13.6%（前連結会計年度比2.0%ポイント上昇）、経常利益は253億円、経常利益率14.0%（前連結会計年度比2.4%ポイント上昇）、当第3四半期純利益は131億円、純利益率7.2%（前連結会計年度比1.4%ポイント上昇）となり、計画どおりの進捗をしております。

## セグメント別の概況

### パーソナルケア事業部門

#### ● ベビーケア事業

国内ベビーケア事業は、リーディングカンパニーとして、消費者の皆様により高い付加価値を提供していくために、パンツタイプオムツの市場浸透策を中心に、絶え間ない製品のリニューアルと積極的なマーケティング活動を推進し、市場の活性化と収益の拡大に努めてまいりました。

今までにない柔らかさとはかせやすさ、動きやすさを実現した新型のはかせるオムツ『ムーニーマン』は、昨年10月の関東地区の発売で全国導入を完了し、また、お手頃価格のパンツタイプオムツ『マミーポコパンツ』は、デザイン性と通気性を向上させ改良新発売することで売上拡大に貢献いたしました。海外では、東アジア地域参入各国（台湾・中国・タイ・マレーシア・シンガポール・インドネシア・フィリピン）において、積極的な販売・マーケティング活動を展開し、市場拡大とテープタイプ『Mamy Poko』、パンツタイプ『Mamy Poko Pants』のブランド浸透を図り、業容を拡大いたしました。ヨーロッパにおいては、パンツタイプオムツの市場への浸透によって売上を拡大いたしました。

#### ● フェミニンケア事業

国内フェミニンケア事業は、生理用品唯一の総合メーカーとして「女性の快適を科学して自由を創造する」という事業理念のもと、『ソフィ』ブランドから安心と快適を実現する製品の開発・改良に注力し、高付加価値製品を提供することで、好調に推移いたしました。

生理用ナプキンでは、『ソフィ ワイドガード』を新発売いたしました。低調する市場において、拡大し続ける夜用市場に対して安心の長さとし、吸収量を備えた新市場創造型の製品を提供いたしました。

成長するパンティーライナー市場においては、『ソフィ カラーライナー』シリーズに新たに40枚入りをラインアップし、ヘビーユースを促進するとともに潜在市場の掘り起こしを行いました。

海外では、東アジアでの展開を加速するために、積極的にマーケティング活動を行い、順調に業容を拡大いたしました。

### ● ヘルスケア事業

国内ヘルスケア事業は、成長市場における競争激化の下で、市場成長率以上の売上高成長を実現いたしました。高齢化が進む中で、「生命(いのち)の喜びを追求する」を事業理念に、心と身体の寝たきりゼロを目指して、『ライフリー』ブランドの開発・改良に注力してまいりました。

高齢者の増加に伴い成長を続けているパンツタイプオムツ4種『ライフリー リハビリパンツ』、『ライフリー うす型軽快パンツ』、『ライフリー うす型長時間安心パンツ』、『ライフリー 夜用安眠パンツ』を、下着のように柔らかく、より上げ下げしやすい製品に改良し新発売いたしました。また、成長著しい軽失禁製品において、『チャームナップ さわやかライナー』シリーズを改良新発売するとともに、新たに『チャームナップ さわやか超吸収』シリーズを新発売することで、潜在市場の掘り起こしとニーズにきめ細かく対応できるラインアップの拡大を行いました。好評の『超立体マスク』シリーズでは、『超立体マスク かぜ用』を新発売し、順調に推移いたしました。

海外では、台湾、タイにおいて『Liferee』ブランドの展開を加速するとともに、ヨーロッパを中心としたパンツタイプオムツも順調に売上を拡大しております。

### ● クリーン&フレッシュ事業

当社がこれまで培ってまいりました不織布・吸収体技術を応用した製品を通じて、お客様へ清潔・安心・新鮮を提供するクリーン&フレッシュ事業では、新しいお掃除習慣を提案し好評をいただいている『ウェーブ』シリーズのデザインを一新するとともに、「お試しキャンペーン」を行うことで、ブランドの浸透と製品付加価値の向上を図っております。

### ペットケア事業部門

連結子会社ユニ・チャームペットケア株式会社にて事業運営しておりますペットケア事業における市場は、高齢化に伴うペット飼育世帯の増加などにより、中長年にわたり成長が期待される有望市場であります。

このような市場環境下において、ペットフード製品では愛猫や愛犬の健康とおいしさを追求した高付加価値製品を積極的に発売することによって、新たな市場を創造するとともに、売上高を拡大いたしました。一方、不織布・吸収体技術を応用したペットトイレタリー製品では、『デオシート』、『デオサンド』、『ペット用紙オムツ』などの既存製品ラインに加え、室内猫用排泄システム『ユニ・チャームペットケア 1週間消臭・抗菌デオトイレ』を新発売し、ペットの新しい排泄習慣を提案いたしました。

## その他部門

その他部門では、スーパーマーケットなどを顧客とする食品包材事業を中心に、堅調に推移いたしました。

### [ 財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等 ]

総資産は前連結会計年度末に比べ 134 億円増加して、2,014 億円となりました。また、株主資本は、66 億円増加して 1,198 億円となりました。この結果、株主資本比率は、前連結会計年度末 60.2%から 59.5%となりました。

増減の主なものは、流動資産では現金及び預金が 102 億円減少し、受取手形及び売掛金が 47 億円増加、有価証券が 56 億円増加しております。有形固定資産では、建設仮勘定が 41 億円増加しております。投資その他の資産では、投資有価証券が 98 億円増加しております。

#### （連結キャッシュ・フロー）

当第 3 四半期の営業キャッシュ・フローは、248 億円となりました。これは主に税金等調整前当期純利益 243 億円等によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、236 億円となりました。設備投資 142 億円、投資有価証券の取得 98 億円が主たる要因です。

財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の取得等により 72 億円となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第 3 四半期末残高は、前連結会計年度末より 61 億円減少して 354 億円となりました。

### [ 業績予想に関する定性的情報等 ]

平成 16 年 3 月期中間決算発表時（平成 15 年 10 月 31 日公表）の予想と変更ありません。

(添付資料)

#### 四半期連結(要約)貸借対照表

(単位 百万円)

科目	当第3四半期末 (平成15年12月31日現在)		前連結会計年度末 (平成15年3月31日現在)	
	金額	構成比	金額	構成比
(資産の部)		%		%
流動資産	88,284	43.8	88,499	47.1
固定資産	113,153	56.2	99,488	52.9
1.有形固定資産	76,535	38.0	71,089	37.8
2.無形固定資産	2,800	1.4	3,309	1.8
3.投資その他の資産	33,817	16.8	25,089	13.3
資産合計	201,437	100.0	187,987	100.0
(負債の部)				
流動負債	64,002	31.8	58,520	31.1
固定負債	10,863	5.4	10,427	5.6
負債合計	74,865	37.2	68,947	36.7
少数株主持分	6,753	3.3	5,903	3.1
(資本の部)				
資本合計	119,818	59.5	113,136	60.2
負債、少数株主持分及び資本合計	201,437	100.0	187,987	100.0

#### 四半期連結(要約)損益計算書

(単位 百万円)

科目	当第3四半期 〔自平成15年4月1日〕 〔至平成15年12月31日〕		前連結会計年度 〔自平成14年4月1日〕 〔至平成15年3月31日〕	
	金額	百分比	金額	百分比
売上高	181,827	100.0	223,168	100.0
売上原価	99,409	54.7	123,882	55.5
売上総利益	82,418	45.3	99,286	44.5
販売費及び一般管理費	57,701	31.7	73,492	32.9
営業利益	24,717	13.6	25,793	11.6
営業外収益	1,304	0.7	1,263	0.5
営業外費用	635	0.3	1,161	0.5
経常利益	25,385	14.0	25,895	11.6
特別利益	483	0.3	535	0.3
特別損失	1,469	0.9	3,533	1.6
税金等調整前当期純利益	24,399	13.4	22,896	10.3
法人税等	10,062	5.5	8,969	4.0
少数株主利益	1,172	0.7	1,046	0.5
当期純利益	13,164	7.2	12,879	5.8

#### 四半期連結（要約）キャッシュ・フロー計算書

（単位 百万円）

科目	期	当第3四半期 〔自 平成15年 4月 1日〕 〔至 平成15年12月31日〕	前連結会計年度 〔自 平成14年4月 1日〕 〔至 平成15年3月31日〕
		金額	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー		24,845	27,185
投資活動によるキャッシュ・フロー		23,669	26,410
財務活動によるキャッシュ・フロー		7,229	9,805
現金及び現金同等物に係る換算差額		109	187
現金及び現金同等物の減少額		6,161	9,217
現金及び現金同等物期首残高		41,568	50,785
現金及び現金同等第3四半期末(期末)残高		35,406	41,568